

入選 兵庫県 稲岡 美智子 様 (50 代)

私は年金に対して、あまり良い印象は持っていませんでした。

それは、年金制度に関する報道で「年金制度の継続は難しい」と見聞きし、自分が老いた時に年金は受取れるの？と不安感が高まる一方で、そんな不安な制度に、高額な掛金を支払っているかと思うと、不満は増すばかりでした。

そんな、マイナスイメージだった年金制度の恩恵を受ける出来事があり、制度の内容を知る事で印象が変わりました。

その出来事は、仕事をしながら治療を受けていた難病指定の病気が、2年前から急激に悪化したことでした。

その年の梅雨の頃から、仕事を辞めて治療に専念しないと深刻な状態になると医師から言われつつ、担当している多くの仕事、それを失い収入が無くなる怖さを考えると、決断できずにいました。散々悩みましたが、動ける体あつての仕事だと退職を決断し、その年の秋に退職しました。

退職後は、数ヶ月ほどの自宅療養と治療で、悪化した病状は改善し再就職活動ができるだろう。数ヶ月なら、生活資金は預金で賄えるから大丈夫だとお気楽に考えていました。

しかし、入院治療をしても全く改善せず、医師から「この状態が続けば、体が1年もたないだろう」と話しがありました。最初は動揺しましたが、「人生の終着点が見えてきたなら、今まで以上に好きな事だけして、我がままに暮らそう。生活資金の面でも、1年はちょうど良い」と開き直りの心境で、意外とスッキリした気分になりました。

その開き直りが良かったのか、入院治療でも全く良くならなかった病状が、改善し始めたんです。医師からは「1年という区切りはリセットされましたね」と言ってもらえ、嬉しかったのですが、同時に生活資金の心配が新たに生まれました。

収入のために、早く再就職したいと焦りましたが、まだまだ働ける体調ではないのは明らかで、でも生活資金の心配が・・・悩みの堂々巡りです。

医師に就労可能になる時期を尋ねると「就労が可能になっても、フルタイムでの勤務は無理だと思います」の回答。今後の生活はどうすれば良いの？

途方に暮れた表情だったのでしょうか。医師から「仕事の心配は生活資金のためですか？」と聞かれ、「安定した収入が無いと、安心して治療を受け続ける事が

できないんです」と不安な気持ちを吐露しました。

提案されたのは、社会保障の対象になると思われる事、その事について病院の相談窓口で聞いてみる事でした。

早速、相談窓口に行き現状を話すと、私の就労不可能な状態は、障害年金支給申請が可能だと教えてもらい、年金事務所へ具体的な申請手続きについて聞きに行きました。

年金事務所は、難しい事を言われそうな場所と思っていたので行きにくく、とても緊張していたのですが、担当してくれた社労士さんは、とても丁寧で親身になって接してくれる方で、安心して相談する事ができました。

社労士さんへの相談では、私が申請できる障害年金と該当する障害の等級、具体的な申請書の書き方についての説明を受けました。

その時に初めて、該当する等級が厚生年金にしか設定が無く、国民年金だけだと申請できなかった事を知りました。

何度かの転職の際、そんな違いを気にする事なく就職先を決めていましたが、偶然にも厚生年金加入が必然的な会社に勤務していました。当時は、掛金が高く薄給には厳しいと感じていましたが、掛金の違いが人生のピンチを助けてくれました。

何度か社労士さんを訪ね、申請書を見てもらい訂正を繰り返し、なんとか提出することができました。その後、審査結果が届き障害年金の受給が決定し、定期的な収入があることで、安心して治療を受ける事ができています。

この経験が無ければ、年金制度について知る機会は無かったと思います。年金事務所の印象も入りにくそうな場所と思ったままでした。そして、大きく変わった事は、年金制度に対する認識です。

年金は遠い未来のためだけではなく、突然の事故や病気などで変わってしまった日常生活を、少しでも安心して暮らせるよう、現在をサポートしてくれるものだと思いました。

天の邪鬼かもしれませんが、働くことが出来ない状態になり思うのは、掛金を払っていたのは働ける状態だったから。それは本当に幸せな事だったんだと。

障害年金のサポートを受けて暮らす中で目標にしているのは、フルタイムで働くことは出来ないかもしれませんが、何らかの形で仕事をし、再び掛金を納入する側になりたいと思っています。